



2015 年 5 月 20 日発行

赤レンガ通信

〒272-0834 千葉県市川市国分 7-12-5(NPO 法人いちかわ市民文化ネットワーク内)
TEL&FAX 047-711-8813
Eメール akarenga_2010@yahoo.co.jp HP <http://ichibun.net/akarenga>

「赤レンガをいかす会」

会の運営は、皆さんのカンパで支えられています。ご支援をよろしくお願いします。
No.9

決して 見捨てない 忘れない 諦めない “市川国府台の赤レンガ”

赤レンガをいかす会代表 吉原廣

皆様、本年度もよろしくお願いします。

昨年は、6月7日(土)の赤レンガ見学会を機に大きな動きがありました。県議会で質問がなされ、県からは「保全」に努めるという回答がありました。同時に、県の手で崩れた屋根瓦にビニールシートがかけられ応急処置が施されました。秋には、市川駅南図書館内でのパネル展示会が開かれ、また「いちかわ市民ミュージカル」が赤レンガをミュージカルに仕立てて評判を呼びました。そして、富岡製糸場の世界文化遺産登録も私たちの活動を励ましてくれました。

さて、今年はどうなりましょうか？

今年は、多くの県・市議会議員に実際に赤レンガを観てもらおうよう働きかけていこうと思います。また、赤レンガの歴史的建築史的紹介とこれまでの活動をまとめたガイド集を発行しようと、本年度の市川市民税1%支援金に登録しました。皆様のご支援をお願いします。



写真1 (白布の屋根)

2015 年の活動

- | | | |
|---|-------------------------------------|---------------------------|
| 1 | 市川市市民税1%支援依頼活動 | 5月～6月 |
| 2 | 市川国府台・赤レンガガイド 発刊 | 10月 |
| 3 | 赤レンガ見学会 | 11月7日(土)(予定) |
| 4 | 国府台の赤レンガの写真展
会場：市川駅南口図書館 | 11月1日(日)～26日(木) |
| 5 | 市民懇談会「大いに語ろう、赤レンガ！」
会場：アイ・リンクルーム | 11月20日(金) 19:00～21:00(予定) |

報告1 3/12 赤レンガちら見の会

今回の客人は千葉県建築士会の会員6名、11時に和洋高校の正門に集合してバス通りを下り旅団坂から筑波大付属聴覚特別支援学校へ向かった。この道中もかつての教導団・陸軍旅団の敷地内で何気なく転がっている石塊、杭などが当時の境界杭だったりする。火薬庫跡、井戸跡などの痕跡もある。筑波大付属学校内に入れて頂いて赤レンガを見る。面会室から金網越しに赤レンガにご対面と言う感じが痛々しい。

見学後、和洋女子大サロンで懇談会を持った。明治18年の教導団施設建設から始まって陸軍師団に推移し血清研究所に至った歴史の概略、その歴史的重要性、また所有者の県も所在地の市川市も財政上の理由があってできれば静かに眠らせておきたいと思っているらしいことなどの説明をして現状の理解をして貰った。

建築士会の皆さんも何ができるかを考えた上で協力したいとの意向だった。こうした地道な活動で理解者のすそ野を広げることが有意義だと思う。
(報告・高木)

市川市市民税 1%市民活動支援制度に登録しました

赤レンガを生かす会

市川に ビックリ 宝物が眠っていた！

～市川国府台の赤レンガ建造物保存活動～

ご支援、よろしくお願いします！

NO.

138

秋のフォーラム＆
「赤レンガガイド」
発行の資金に
使わせていただきます。



広い空と緑の斜面林、そして江戸川の豊かな流れが心なごませる、市川市国府台の景観。その緑濃い大地の中の旧千葉県血清研究所跡地に、世界文化遺産の富岡製糸場にも匹敵する、明治初期に建てられた赤レンガの建物が今も静かに残っています。かつて市川は、旧日本陸軍の軍都でした。ここからはたくさんの兵士が戦場へと狩り出されていきました。その悲惨な歴史を見つめ続けてきた戦争遺跡の赤レンガ建造物を、平和と文化と環境と防災の拠点に生まれ変わらせたい。

これが私たちの願いです。

市民税 1%市民活動支援制度って？

- 個人市民税納税者が、前年度に納税した額の1%を、地域づくりの主体であるボランティア団体やNPOなど、市民の自主的な活動に対して、3団体まで支援できます。
- 既に納めた市民税を支援に回せるもので、新たに寄付金を必要とするものではありません。
- 市民税を納めた市川市民に限ります。

届け出の方法は？

自営業の方や市県民税を、ご自分でお支払している方は…

- 今年6月に市から発送される納税通知書の普通徴収通知書番号で、届け出ができます。

会社から市県民税をひかれていらっしゃる方は…

- 今年6月以降に給与明細と一緒にもらう特別徴収税額の決定通知書の指定番号・個人番号で届出ができます。

2015 年 10 月 出版予告
「市川国府台の赤レンガ」ガイド
甦れ、市川国府台の赤レンガ！ (仮題)
A5 版 80 ページ

市川国府台の赤レンガ建造物とは何か？ 誰が、何の目的で、建てたのか？ どのような変遷の歴史を追っているのか？ そして 2009 年、保存を求める市民活動はどのように行動してきたか？

明治維新の後、市川国府台地を巡る話題の数々…日本最初の国立大学建設計画の頓挫、日本陸軍養成所教導団の設置と赤レンガ武器庫の建設、砲兵旅団への改変と演習地の拡大、そして敗戦後の血清研究所施設への編入…市川国府台の赤レンガ建造物 100 年を越える歴史を軍事史的に、建築史的に、郷土史的に、紐解いていきます。

同時に、この貴重な戦時遺産を、未来にどう活用していけばいいのかを展望します。ご期待ください。



コラム 大学と戦争遺跡を考える

中島明子 (和洋女子大学)

国府台に大学等が集積し、これが陸軍旅団の跡地にあることを知って以来、大学と軍隊との関係が気になっていた。戦後発足した大学の中には、旧軍用地を取得したところが相当あるはずだ。

千葉県内では、千葉経済大学に陸軍鉄道第一連隊材料廠の赤レンガ建物が保存され、千葉工業大学には、国の登録有形文化財に指定された旧鉄道第二連隊表門が通用門として使われている。

明治大学は、1950 年に旧陸軍登戸研究所跡地を購入し、2010 年には陸軍施設を使って平和教育登戸研究所資料館を設立した。設立趣旨には「登戸研究所という機関のおこなったことがらを記録にとどめ、大学として歴史教育・平和教育・科学教育の発信地とする」とある。2013 年に開校した中野キャンパスは旧陸軍中野学校跡地であった。

また、慶應義塾大学日吉キャンパスは、戦況悪化に伴い旧海軍連合艦隊司令部が大学校舎と寄宿舎を占拠し、巨大な地下壕を建設した。これも大学が保存し、大学の教職員と地域住民と共に「日吉台地下壕保存の会」を発足して公開し、調査研究を進めている。

これらの大学における戦争遺跡の保存・活用は、若い人々が集い知的創造を行う大学において、戦争の記憶を語り継いでゆく意義があると考えからである。国府台地域が、つい 70 年前まで戦争遂行のための空間であった事実を若者や市民に語り継ぎ、改めて平和を希求する学術・文化の拠点として、赤レンガを核に国府台地域を再生することは、未来を考える上で意味があるのではないか。



千葉経済学園 (千葉経済大学)
旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築



慶應義塾大学旧連合艦隊指令部地下壕入坑部

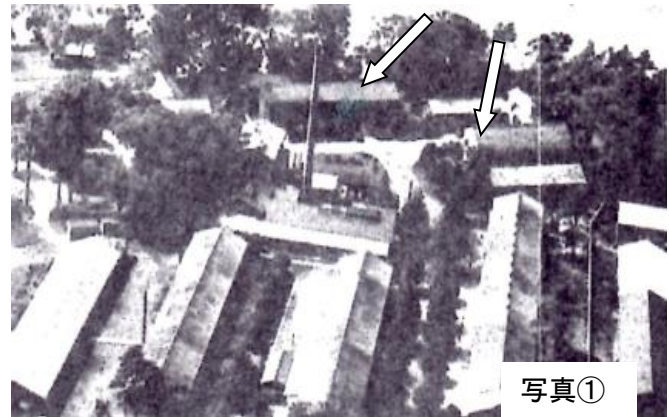


明治大学平和教育登戸研究所資料館
(明治大学 HP より)

私と赤レンガ

島 田 行 信 (元千葉県血清研究所職員)

1959年4月千葉県の公務員となって、最初の勤務先が市川市国府台の千葉県血清研究所(血清研)であった。当時赤レンガの建物は2棟(7号館と9号館)あり、(写真①)何れも2階建てで軍が使用していた内部を改装して利用していた。7号館の1階はワクチンを保管する「冷蔵室」と「血清室」、2階が「資材倉庫」。9号館は1階が「変電室」と「血漿室」、2階が「事務室」となっていた。



私は庶務課でワクチン類を研究・製造するための原材料や薬品・消耗品などの諸資材を調達・管理する業務を9年間担当。1968年4月県庁へ異動するまで、2棟の赤レンガの階段を毎日何十回も往復していた。

2014年6月7日「赤レンガを生かす会」主催の見学会に参加、40数年ぶりに血清研跡地を訪ねた。当日目にした赤レンガは7号館のみで、私がいた9号館の場所には大きな建物(製品棟)が建っていた。聞くとところ1970年に解体されたようであるが当時、私は旧自治省(現総務省)に勤務していたため、この情報に接しなかった。9号館は7号館より建物が横に長く(約1.4倍)、外壁一面が蔦で覆われた風情のある建物であった。9号館解体の時に関係者は、この建物について歴史的・文化的価値を考えなかったのだろうか。先に壊された兄(9号館)を見て弟(7号館)は悲しみを堪え、今も一人寂しく過ごしていると思えてならない。

現存の赤レンガの建物は、当時西側(江戸川寄り)の入口のみであり、私の在勤中は現在の東側の入口は無く、建築された明治時代の時から西側が唯一の出入り口であったと思われる(写真②)。



明治から平成まで120年以上、世の中の様々な状況を国府台の地から眺めてきた赤レンガ。関東大震災、第2次世界大戦、東日本大震災も乗り越え、よくここまで来てくれたと大きな感動を覚える。また合わせて公務員として初めて働いた赤レンガ建物については、青春時代の思い出として今も鮮明に脳裏に焼き付いている。

所有者の千葉県、所在地の市川市をはじめ市民の皆さんの力を結集して、「この歴史を語る建物をずっと後世に残して欲しい」と強く願っている一人である。

なお余談であるが、この資材倉庫となっていた赤レンガの2階入口に、当時私が紙に書いて画鋏でとめた表示が今も残っていたことは、驚きであった(写真③)。

